

新型コロナウイルス感染症関係の情報

掲載している情報は今後変わる場合があります。最新の情報は市ホームページでご確認ください



新型コロナウイルス感染症の影響を受ける人への支援など

7月29日現在の情報です。詳しくはお問い合わせください

【介護保険料の減免】

第1号被保険者の属する世帯で、主に生計を維持する人が新型コロナウイルス感染症に感染し、死亡や重篤な状態となった、またはその影響により事業収入など30%以上減少が見込まれる場合、区分に応じて保険料の減免を行います。

■問い合わせ 本庁長寿社会課介護認定係（☎ 34-2198）

市ホームページ▶



【住居を失うおそれのある人への給付】

離職や休業などに伴う収入の減少で住居を失った、または失うおそれのある人を対象に、賃貸住宅などの家賃相当額（上限あり）を住居確保給付金として給付します。

給付金は、原則3カ月間、最長9カ月間の支給です。

■問い合わせ くらし・安心応援室（☎ 47-4546）

【農業者への支援金】

◎4年産米生産緊急支援事業

外食産業の米需要が落ち込み米価が大幅に下落していることから、4年に水稻を作付けし、出荷・販売する生産者へ作付け支援金を交付します。

■対象者 対象作物を作付けし、出荷・販売する生産者

■対象作物 主食用米、輸出用米、加工用米、備蓄用米 ※飼料用米は除く

■交付金額 10㍻当たり2千円

■申請方法 ▶認定方針作成者（岩手ふるさと農協、岩手江刺農協、三清商店）に出荷・販売する

生産者…6月末までに出荷契約を締結した場合、認定方針作成者が市へ申請

▶上記以外に出荷・販売する生産者…生産者が市へ申請 ※申請書はすでに送付済み

■申請期限 9月30日☎

◎農業用肥料高騰対策支援事業交付金

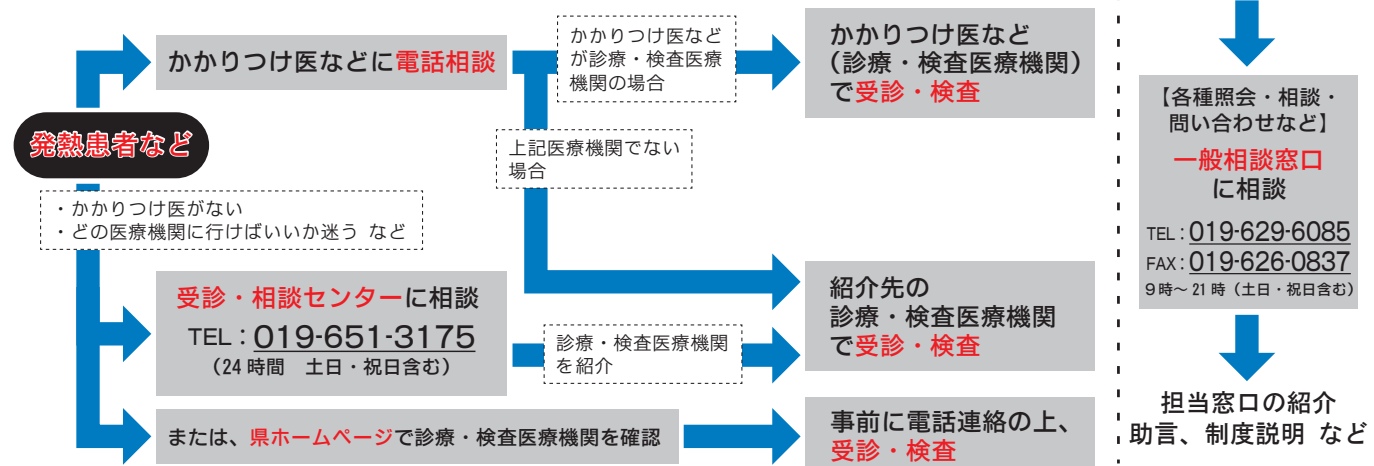
農業用肥料の価格が高騰していることから、今後も営農を継続する市内の農業者に対し、交付金を交付する予定です。

詳細が決まり次第、広報おうしゅうや市ホームページなどでお知らせします。

■問い合わせ 本庁農政課農産係（☎ 34-1583）

■発熱や風邪などの病状のある人の相談・受診■

- ・発熱などの症状が生じた場合には、まずはかかりつけ医などに電話で相談
- ・相談する医療機関に迷う場合などは、「受診・相談センター」に相談または、県ホームページで診療・検査医療機関を確認



<今月の表紙>

120人の市民と共に 情熱舞台で魅了



7月31日、市文化会館（Zホール）の開館30周年記念事業オペラ「トスカ」が、同ホールで行われました。本市出身のテノール歌手福井敬さん（奥州大使）、盛岡市出身のソプラノ歌手野田ヒロ子さんなど国内屈指の声楽家のほか、市民合唱団らが出演し、30回以上に及ぶ練習の成果を披露。イタリア歌劇の代表作を見事に演じると、約千人の観客から万雷の拍手が送られました。

Public Relations Magazine Oshu City

2022.8 Vol.198

広報おうしゅう
令和4年8月号

CONTENTS

- | | | | |
|----|----------------------------------|----|--|
| 2 | キラリ輝く奥州人 | 11 | 時間外や休日にマイナンバーカードの窓口を開設します
市長コラム「おうしゅう羅針盤」 |
| 3 | 新型コロナウイルス感染症関係の情報 | 12 | 街diary |
| 4 | コンパクトシティによるまちづくり | 14 | もっと安心 ずっとおうしゅう
はい、こちら総合相談室 |
| 6 | 地域づくりの輪 | 15 | 子そだて広場 |
| 7 | 介護の職場で働きませんか | 16 | インフォメーション |
| 8 | ふるさと納税でまちの魅力を発信します | 20 | 奥州遺産 |
| 9 | 旧土地開発公社土地の活用処分状況を公表します
医療局だより | | |
| 10 | あなたの出会いを応援 i-サポの事業を紹介 | | |



佐々木 智美 さん（25歳）

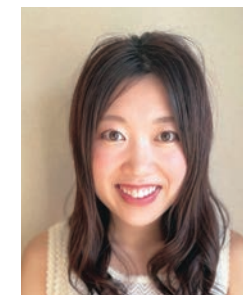
＝水沢南大鐘＝

生産者の思い 全国へ向けて発信

厳しくも豊かな自然に育まれ、さまざまな農畜産物を生み出す岩手。ここ「純情産地」を全国にPRする「2022いわて純情むすめ」に認定されたのが佐々木智美さんだ。幼少期は米やリンドウ、肉用牛などの世話をする祖父の背中を見て育った智美さん。大切に育てた牛を売り、大学の学費を工面してくれた祖父への尊敬の念は尽きない。大学時代を東京で過ごす中で、普段食べていた新鮮な野菜を食べられることは、当たり前ではないことに気付いた。

ピーマンやナスなどの夏野菜をふんだんに使ったカレーをPRする智美さん。生産者の思いも一緒に届ける

そして、生産者が苦勞しながら野菜を届けていることを都市部ではあまり知られていないことも知った。志を持ち大切に生産している側面を、全国の人たちにも知ってほしい。智美さんは「純情むすめ」への応募を決めた。来年6月までの任期中、各地に出向き、フェアやキャンペーンなどで岩手の農畜産物を紹介する。「感謝の気持ちを胸に、生産者の声を届けたい」と語る智美さん。丹精込めて作られた、ふるさとの農畜産物の魅力を全国へ届けていく。



ささき・ともみ
◎平成8年、衣川生まれ。大学卒業後に銀行を経て、現在は化粧品会社に勤務。高校時代はサッカー部マネージャーと茶菓部に所属。趣味は登山・温泉巡りなど